

温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業



【令和2年度要求額 1,995百万円（1,890百万円）】

衛星等による人為起源温室効果ガス排出源の特定および排出量推計精度の向上を目指す

1. 事業目的

- ① 各国が自ら「いぶき」シリーズを用いて温室効果ガス（GHG）排出量の比較評価を実施できるよう、継続的な全球観測体制の整備を行う
- ② グローバル・ストックテイクへの貢献を目指し、客観性の高い独立した排出量検証手法を確立する

2. 事業内容

1. いぶき2号衛星観測システムの運用

- 2018年に打ち上げた「いぶき2号」の運用（衛星の軌道制御、健全性の確認、捕捉・追尾、データの受信・処理、観測データの品質管理など）を継続実施する

2. 排出量検証に向けた技術高度化

- 衛星データ等を用いてGHG排出インベントリとの比較・評価を実施する
 - (1) 濃度算出アルゴリズムの高度化
 - (2) 高次プロダクトの検証（地上観測データの取得、衛星データとの検証）
 - (3) GHG排出量推計精度評価のための実証実験

3. 3号機衛星観測システムの製造

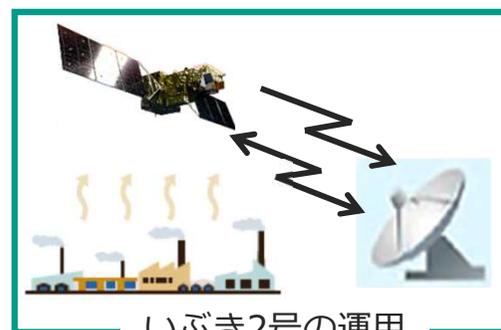
- 宇宙基本計画及び工程表に基づき、いぶき2号の評価結果を踏まえ3号機に取り組む

3. 事業スキーム

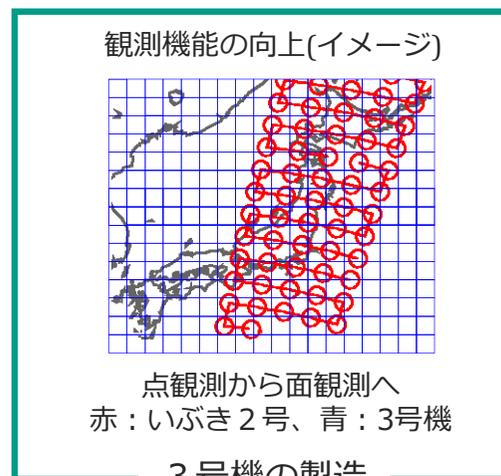
- 事業形態 委託事業
- 委託先 民間事業者・団体等
- 実施期間 平成26年度～

4. 事業イメージ

Image courtesy of JAXA and NIES



いぶき2号の運用



観測機能の向上(イメージ)

点観測から面観測へ
赤：いぶき2号、青：3号機

3号機の製造

